

【平昌冬季オリンピックで日本選手の大活躍】

今、平昌オリンピックから目が離せません。フィギュアスケートの羽生選手の奇蹟のカムバックの金メダルやジャンプの高梨選手の4年越しのメダル獲得、オリンピックでしか見る機会の無いカーリングの奥深さと日本選手の活躍。北海道訛りの「そっだね！」が飛び交うシンキングタイムも見逃せません。連日、遅くまでテレビに釘付けです。

中でも女子スピードスケートが際立っています。団体パシュートでの高木選手の3つめのメダルの色が気になるのですが、小平選手の500メートルは痺れました。金メダル獲得が当然視される中、実力を出しきることと結果を残すことの困難さを克服しての金メダル。素晴らしい！それに加えて20日の天声人語を紹介したいと思います。

スピードスケートの小平奈緒がレースを終え、リングをゆっくりと回る。観客から大きな歓声上がる。小平は指を立てて口にあてた。「静かに。次のレースがあるから。」と言うかのように。その瞬間の写真が韓国の新聞「朝鮮日報」の記事に添えられていた▼次に控えていた韓国の李相花(イソファ)は、五輪での3連覇が期待されていた。小平のしぐさは李への気配りのように見えた、と記事にある。結果は小平が李にまさった。泣き崩れそうになった李を小平が抱擁したことも韓国メディアは手厚く伝えた▼国際大会で何度も戦うライバルは、やがて友達になった。李は語っている。「彼女が韓国の家遊びに来たことがあった。私が日本へ行けば、いつも面倒を見てくれる。特別な友達だ」。2人で一緒に走ってきた、とも▼ライバルの語源はラテン語の「川」にあり「対岸に住み同じ川を利用する2人」を指した。水をめぐる争いがあるためという。しかし2人の選手を見ていると、同じ川の流れのなかで生きる人、と読み替えたくなる(以下略)

勝負に勝つ強い精神力に加え、どんなときにも周りに配慮できる優しさも備え持っている小平選手。日本と韓国の架け橋にもなったようですね。優勝おめでとうございます。

【伝えたい言葉】

私は「人生は愛することだ」ということをずっと書いてきました。それはどういうことか。「人を許すこと」だと思います。私たちは何かに許されて生きています。同時に、何かを許して生きていかねばならない。それが「人間が生きること」だと考えています。

(瀬戸内寂聴 作家・僧侶 96歳)

2018.1.31 朝日賞受賞時のスピーチの抜粋

今年も卒業式が近づいてきました。33回生(総合学科15期生)234名の皆さんが巣立って行かれます。皆さんへのはなむけとして人生の大先輩の言葉を紹介します。

暖かい日は昼寝に限る!

